



みなさん、そうしていますよ…… アムネスティの報告書 死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

東京都荒川区南千住1-59-6-302

<http://sobanokai.my.coccan.jp/>

4月21日、アムネスティ・インターナショナルが2020年の死刑判決と死刑執行についての報告書を発表しました。

報告によれば、**法律上・事実上の死刑廃止国数は144カ国**です。（2019年は142）

※「事実上の廃止国」とは過去10年間に執行がなく、死刑執行をしない政策・確立した慣例を持っていると思われる国を指します。

存置国数は55カ国、死刑執行をした国の数は18カ国でした。

この情報源は多岐にわたるものですが、「中国、ベトナムは、死刑執行数を国家機密とみなしている。……ラオスと北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）を始めとするいくつかの国では、情報開示制限により情報を得ることができなかった」とことから「死刑執行数の」実際の数値は、おそらく「もつと高い」ということです。

★日本では死刑の執行がなかった

報告書の中で日本のことは、どのように記されているでしょうか。

日本では、2011年以降で初めて死刑の執行がなかった。死刑判決は3件あり、すべてが複数人を殺害した罪だった。年間3件の死刑判決は、2012年以降続く年間5件以下のレベルに収まる形となった。……中略……3人の死刑確定者が拘置所で亡くなり、年末時点での死刑確定者数は、死刑判決を受けている120人中、外国籍者6人を含む110人だった。うち2人が再審請求を断念した。

死刑確定者は依然として独房に収監されており、実効性ある保護措置や定期的な精神鑑定を受けられなかった。精神障がい者や知的障がい者を死刑の対象とする国際法および国際基準違反の状態が続いている。

そして、起訴される以前から水銀中毒（水俣病）が原因の精神障がいがあり、死刑確定者の独房に収監されている間に妄想性障がいを発症したMさんや、独房で長年過ごす間に精神障がいを発症したHさんの事例を紹介しています。

★アメリカでも、そうなりそうですよ

さて、こうしたデータをもとに「死刑廃止は今や世界の潮流です」「日本の死刑囚処遇は国際人権の観点からすれば問題が大きいものです」と訴えると、「世界はそうでも日本は日本……」という反論が出てきそうです。実際、私たちもよく言われます。

それでも、「死刑」という道具を使わずに社会を守っている（or守ろうとしている）国や地域がたくさんあることは知っておきたいし、見習ってみてもよいことではないでしょうか。

「日本人に一番効果があるのは『みなさん、そうしていますよ』という説得だ」とは、国際会議などでよく使われるジョークらしいのですが、死刑制度への賛否については、これまであまり効き目が感じられなかったのはなぜでしょうか。「みなさん」ではなくて「アメリカでも、そうなりそうですよ」と言えばよかったのかな。（一）